

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	江原 重幸
論文担当者	主査 増山 理
	副査 島 正之
	副査 小山 英則
学位論文名	Relationships of oxidized HDL with blood coagulation and fibrinolysis in patients with type 2 diabetes mellitus (2型糖尿病における血液凝固・線溶系と酸化 HDL との関連性)
論文審査の結果の要旨	
<p>糖尿病患者では血中脂質および血液凝固線溶能の異常がしばしば合併し、これらは糖尿病大血管症の誘因となる。血中リポ蛋白のうち、LDLの酸化は動脈硬化の病態生理上、重要であるが、酸化 HDL (ox-HDL) の意義については明確にされていない。申請者らは HDL コレステロール (HDL-C) と ox-HDL がそれぞれ独立して D-ダイマーと負の相関を示すことを最近報告した。D-ダイマーは血液凝固、線溶のいずれをも反映するマーカーであるが、さらに本研究では、血液凝固能のマーカーであるトロンビン-アンチトロンビン複合体 (TAT) と線溶能のマーカーであるプラスミン-α 2 プラスミンインヒビター複合体 (PIC) を用いて、血液凝固および線溶能と HDL-C および ox-HDL との関係をそれぞれ検討した。</p> <p>2型糖尿病患者を対象に、HDL-C、ox-HDL および他の血中脂質関連変数 (総コレステロール、中性脂肪、LDL コレステロール [LDL-C]、酸化 LDL [ox-LDL]、LDL-C/HDL-C 比、ox-LDL/ox-HDL 比) と、TAT、PIC およびフィブリノーゲンとの相関を分析した。これらの変数の中で、ox-HDL のみが TAT、PIC、フィブリノーゲンとそれぞれ有意な負の相関を示した。ox-HDL と TAT および PIC との負の関連性は、性、年齢、飲酒・喫煙歴、BMI、ヘモグロビン A1c および治療歴を調整したロジスティック回帰分析においても確認された。</p> <p>以上の結果から、2型糖尿病患者では、ox-HDL は血液凝固および線溶のいずれとも負の関連を示すことが明らかになった。血中 ox-HDL レベルの意義はこれまで不明であったが、本研究では低 ox-HDL が糖尿病における血栓症のリスク上昇と関連することを初めて示した。本研究の成果は糖尿病患者における大血管症のリスクを知る上で有意義な知見であり、学位授与に値すると評価した。</p>	